

白内障とその治療について

眼の構造は、よくカメラにたとえられます。カメラのレンズに相当する水晶体は本来透明ですが、加齢とともに自然に水晶体が混濁して見えにくくなる病気が白内障です。主な症状はまぶしい、目がかすむ、一時的に近視が進むなどです。加齢による白内障は白髪や肌のシワと同じで歳とともに誰にでも起きうる変化です。しかし白内障の自覚症状は、白内障以外の多くの病気でも現れ、治療をしないと失明につながる病気もありますので、きちんと医師の診断を受けるようにしてください。また眼以外の病気でも白内障が起きることがあります。糖尿病やアトピー性皮膚炎では若い人でも白内障になりますし、先天性のものもあります。

白内障の手術は安全に短時間で行われ、術後の視力結果も良好です。いつ手術を受けるかは、「その人が不便だと感じた時が手術を受ける時期」と考えて問題ありません。しかし進行した白内障をそのままにしておくと、稀に緑内障やぶどう膜炎を起こすことがあります。反対に医学的な理由であまり急いで手術をしないほうがよいと判断される場合もあります。白内障の手術はいろいろありますが、現在は水晶体の後ろの壁（後囊）だけを残して濁った部分を取り除き、そこに眼内レンズを取り付ける方法が主流です。手術によりほぼ白内障が起きる前の見やすさになりますが、眼内レンズはピントを調節する機能がないため、不便に感じる場合があります。その場合は手術後1～3か月ぐらいして、視力が落ち着いてから眼鏡などで調整します。

平成23年9月

掘 知子